兵庫県藻場・干潟ビジョン

●藻場・干潟の保全・創造に向けた対策実施海域及び対策内容

減少傾向にある藻場・干潟面積の増大と海域の生産性向上を図るため、水温や水質等の観測、藻場・干潟の消長確認、食害生物や藻場・干潟を利用する生物の状況確認を継続しながら、栄養塩類濃度向上のためのかいぼりや下水処理水管理運転の取組みや食害対策を進めていく。

●対象となる藻場・干潟

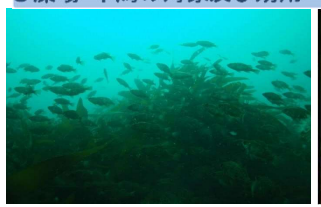

アラメ・カジメ場

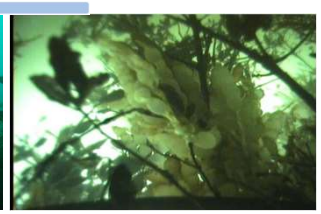

ガラモ場


アマモ場


干潟

●藻場・干潟の対象及び効用


藻場に蝟集するメバル

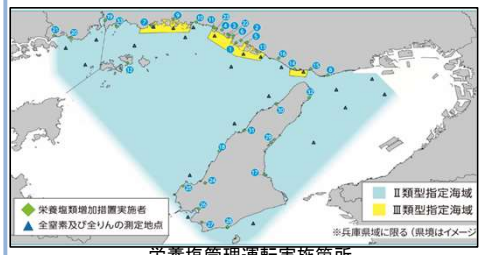

アオリイカの産卵


二枚貝による水質浄化

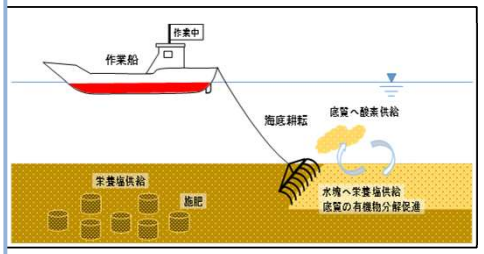
●海域ごとの特性とそれを踏まえた、長期目標、対策方針

区分	海域		海域特性	主な藻類	藻場変化要因	長期目標（面積）	対策【保全】	対策【創造】	水産有用種
藻場	日本海		藻場：増加（※R7夏季高水温で減少の可能性） 水質：栄養塩低。他海域より夏季水温高。透明度高。 基質：急峻な岩礁が連続、河口等一部砂泥域	ガラモ場 一部アマモ場	海水温上昇、栄養塩不足、砂の移動、植食性動物、高透明度 －要因 ＋要因	藻場595.9ha（R4･5年値） ※同精度調査下での最大藻場面積（以下同様）	全域のモニタリング、栄養塩環境改善（下水処理施設の栄養塩管理運転、かいぼり、海底耕耘、施肥）、食害対策	深場、河口にガラモ場を対象とした藻場礁設置（高温・基質対策） 一部、アマモ場造成	マダイ メバル
	大阪湾		藻場：減少。アラメ場がガラモ場へ変化 水質：栄養塩低。水温高 基質：人工海岸や岩礁から速やかに砂泥底分布	ガラモ場		藻場212ha（H26･27年値）		深場にガラモ場を対象とした藻場礁設置（高温・基質対策）	キジハタ メバル
	播磨灘	北岸	藻場：アマモ減少 水質：栄養塩低。水温高 基質：砂泥質の遠浅地形	アマモ場		藻場359.3ha（R4･5年値）		アマモ場の保全・再生（播種・種苗移植）	マダイ メバル
		淡路島	藻場：ガラモ場等増加 水質：栄養塩低。水温高 基質：岩礁から速やかに砂泥底分布	ガラモ場				深場にガラモ場を対象とした藻場礁設置（高温・基質対策）	
	紀伊水道		藻場：アラメ場増加 水質：栄養塩低。他海域より水温低（経年的には上昇）。透明度高。 基質：岩礁、砂底が混在	アラメ場 一部アマモ場		藻場462.4ha（R4･5年値）		アラメ場を対象とした、藻場礁の設置（高温対策） アマモ場の保全・再生（播種・種苗移植）	マダイ メバル
干潟	播磨灘		面積大きい	－	栄養塩不足、底質不安定性、食害生物、海面上昇	干潟265.2ha（R4･5年値）	モニタリング、食害生物除去、二枚貝類の放流・網袋等による保護育成、海底耕耘、浚渫土砂を活用した浅場造成		アサリ
	紀伊水道		面積小さい			干潟16.5ha（R4･5年値）			

●保全に向けた対策例

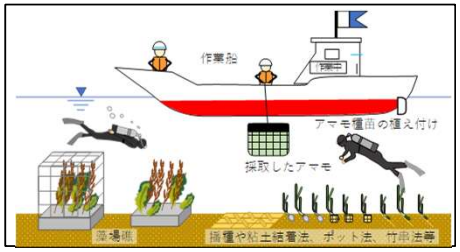


栄養塩管理運転実施箇所

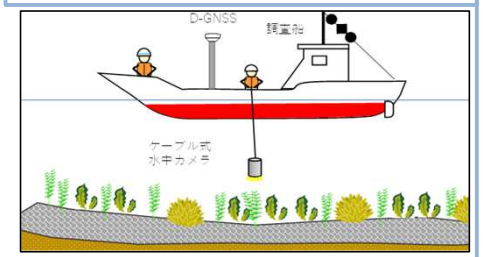


施肥や海底耕耘

●創造に向けた対策例



藻場保全再生



モニタリング


藻場礁の設置


ウニ類除去


浚渫・覆砂

●多様な主体による保全活動への参画とカーボンニュートラルへの貢献

持続可能な保全活動を進めていくための組織づくりや二酸化炭素の吸収源としてブルーカーボンへの社会的な関心の高まりを捉えたカーボンニュートラルへの貢献を適切に評価・発信していく。